

2020 年度事業計画

公益財団法人竹中育英会

【公1】教育・研究への助成事業

1. 国内奨学生に対する助成

(1) 奨学生数と給付金額

- ・2020年1月～2020年3月

2019年より継続の大学生121名、大学院生44名（修士37名 博士7名）、計165名

- ・2020年4月～2020年12月

大学生126名（継続86名 新規40名）、大学院生51名（継続21名 新規30名）、計177名

- ・給付月額

大学生、大学院生ともに80,000円

(2) 新奨学生の選考

- ・大学新規奨学生40名、大学院生（大学奨学生より進学した学生）30名を採用予定。
- ・指定20大学より推薦を受けた新2年生各2名、及び当会大学奨学生から大学院に進学した学生を対象に、5～6月、選考委員会による書類選考及び面接選考を行い、採用者を決定する。

2. 海外留学奨学生に対する助成

(1) 奨学生数と給付金額

- ・2015～2018年選考の継続奨学生12名、2019年選考の新規奨学生8名、計20名

- ・給付年額

4,500,000円を上限とする。

(2) 海外留学新奨学生の選考

- ・指定6大学および当会国内奨学生より応募者を募り、選考委員会による書類選考及び面接選考を行い、5名以内で内定者を決定する。
- ・留学先大学決定後、本決定とする。

3. 奨学金総額

244,260,000円

4. 奨学生に対する支援

(1) 行事の開催

奨学生相互の親睦を促進するとともに財団関係者・大学関係者・奨学生OBとの交流を目的に、以下の行事を開催する。

- ・卒業奨学生歓送会（大阪・東京にて開催、3月）
- ・新奨学生歓迎会（大阪・東京にて開催、10月）
- ・各大学の集い（大学毎に年2回開催）
- ・大学間の集い（適宜）

(2) 学生寮の設置・運営

- ・所在地 東京都練馬区中村橋2丁目9番4号
- ・施設 鉄筋コンクリート造、延1,632㎡
- ・収容可能数 28名（男性23名、女性5名）
- ・寮費 食費のみ

(3) 奨学生OB組織（竹門会）に対する支援

- ・活動の機会と場を提供する。
- ・奨学生の集いへの参加を要請し、現役奨学生との交流を促進する。

5. 研究者に対する助成

(1) 建築研究助成金の交付

- ①対象者 大学院生で無所得の研究者
- ②募集方法 研究課題の募集を日本建築学会に依頼し、同学会の機関紙「建築雑誌」及びHPを通じて募集する。
- ③選考方法 応募課題を研究助成選定委員会にて審査し決定の上、その結果を日本建築学会の学術推進委員会に報告する。
- ④助成件数 10件
- ⑤助成金額 1件500,000円 総額5,000,000円
- ⑥成果報告 応募1年後に、研究論文等の提出を求め、研究成果を確認する。

6. ハンディキャップフィールドに対する助成

(1) 学校法人日本聾話学校

- ・助成対象 聴力・言語教育方法・施設・設備・器具の研究
- ・助成金 年額350,000円

(2) 社会福祉法人無憂園

- ・助成対象 教育設備等への支援
- ・助成金 年額300,000円

【公2】文化及び芸術の振興を目的とする事業の実施及び支援

1. 展示事業の実施

文化・芸術事業選定委員会により審査・選定された展示会（1）～（3）の主催と神戸市立博物館他主催の展示会（4）の特別協力を行う。

（1）マギーズの庭 展

～訪問者のもつ本来の力を取り戻す場所、マギーズセンターのランドスケープ～

① 内 容

がん患者とその家族・友人のための相談支援施設である「マギーズセンター」は、がんで亡くなった造園家のマギー女史によって 1996 年に英国エジンバラの病院内に開設され、それ以降、英国を中心に東京を含め 20 か所以上に設置されてきました。その建築には多くの有名建築家が参加していますが、自然を愛する英国の風土も手伝って、マギーズセンターのコンセプトを担ううえでの庭の役割がとて重要になっています。

マギー女史が残した遺言には、外界に左右されない「安心できる庭」の必要性をあげています。マギーの理念を通してランドスケープの大切さ、また建築空間と庭の関係性を探り、建築を含めたランドスケープが、がん末期の人の心にどのような役割をもたらすことができるのか、デザインの可能性を探ります。

展示では庭の一部を再現しマギーズセンターのテーブルコーナーを作って、訪れた方にセンターの体験をしていただきます。

② 展示日程（予定）

2020年3月10日～2020年5月14日 於：ギャラリーエークウッド

③ 予算 10,500,000円

（2）100+20人の東京 2019-2020 South 編

～人・建築・都市を記憶する～ レンズ付フィルムによる写真展

① 内 容

本企画は、時代とともに変遷する街並みの中で、人々の営みと共に大切にされてきた風景や建築を市民目線で撮影し、記憶に留めようとする実験的なイベントです。

本展示では、2020年東京オリンピック・パラリンピックを前に、この先も魅力ある都市「東京」を市民の目線で育てていくため、心に残る建築や風景を、公募により集まった100人の一般参加者と20人のアーティストや専門家によって撮影し、紹介しようとするものです。100+20人が見たオリンピック・パラリンピック前の東京の姿を捉えます。

2020年に向けて建設される競技会場などオリンピック・パラリンピック関連施設のほか、1920年から1960年代に建設された東京のモダニズム建築にも焦点を当て、保存再生の意義についても考えます。

誰もが簡単に使える撮影機材「写ルンです」を用いて、アナログフィルムの魅力を体感しながら、建築・都市の魅力を100+20人で探し、発見し、伝えていきます。

② 展示日程（予定）

2020年5月21日～2020年7月21日 於：ギャラリーエークウッド

③ 予算 9,500,000円

(3) フィリップ・ワイズベッカーが描く暮らしの道具展

① 内容

フィリップ・ワイズベッカーは、建築、機械装置、トラック、キャンプ道具、家具などを古紙や再生紙にスケッチするという独特な作風でものの魅力を鋭く捉えているアーティストです。暮らしの中にあるオブジェをシンプルなラインでとらえるその画風は、日常にある身近なものを表情豊かに表現し、世代を選ばず広く親しまれています。

ワイズベッカーはまた日本のモノづくりの道具とりわけ大工道具にも美を見出し、2013年には竹中大工道具館のイメージドローイングを描いています。

彼は、流行や人為的な変化の影響を受けていないオブジェに本質的な美を見出し、現代的な方法で後世に残し伝えたいという考えを持っており、その視線は、失われつつある日本の風景や伝統的な暮らしの道具への新たな可能性を、現代の眼で見直す機会を与えてくれます。

展示では、ワイズベッカーの作家としての歩みがわかる作品とともに、イラストレーションと実際に描かれた暮らしの道具を展示します。また、普段の制作に使っている愛用の道具も紹介し、身近な道具でメモを書くようにスケッチする楽しい創作の現場を紹介します。

② 展示日程（予定）

2020年10月23日～2020年12月4日 於：ギャラリーエークウッド

③ 予算 10,000,000円

(4) 建築と社会の年代記 ―竹中工務店400年の歩み― 展

① 内容

私たち人類は、大きな時間の流れの中で建築とさまざまな関係性を結び、建築を生活のよりどころとして文化を醸成してきました。

竹中工務店に根付く「ものづくり」にかける精神的風土は、長大な時によって育まれたものであり、それはつねに時代や社会と深く関連し、建築を通じて時代の景色を塗り替えてきました。そして、そこにはいつも竹中工務店が培ってきた「棟梁精神」が寄り添い、あらたな「かたち」が創出されてきました。

本展では400年余りの歩みを眺望しつつ、「はじまりのかたち」、「出会いのかたち」など8つのカテゴリーをもって作品をグルーピングし、時代の気配を映したそれぞれの「かたち」を紹介します。

また、竹中育英会を含む3つの公益財団にもスポットを当て、それぞれの社会貢献活動を紹介します。

② 展示日程（予定）

2020年1月11日～2020年3月1日 於：神戸市立博物館

③ 予算 3,000,000円